

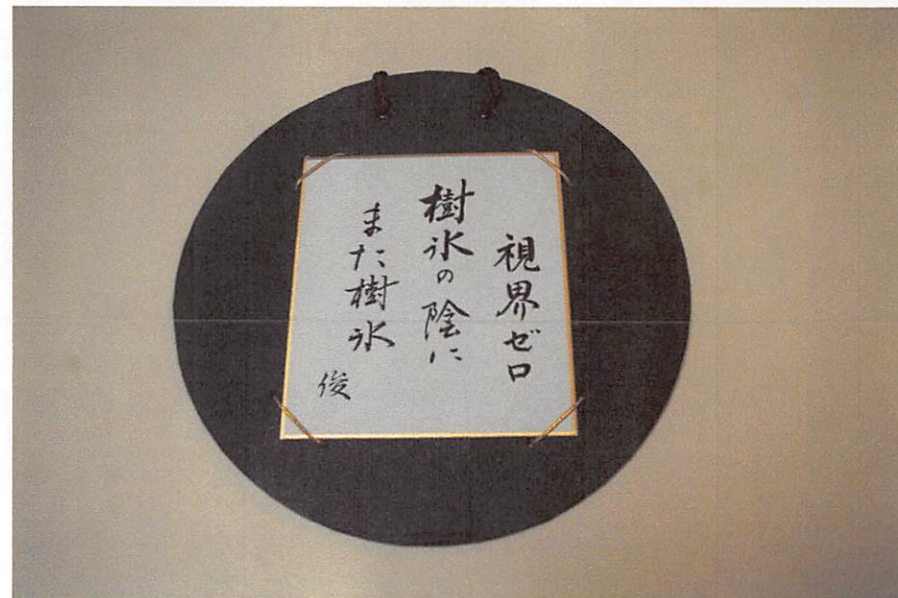
続・旅、
あちらこちら

句と文：千葉 俊雄

書：松島 澄氏

GENKI展：2022. 3. 15～3. 20

於：練馬区立練馬美術館

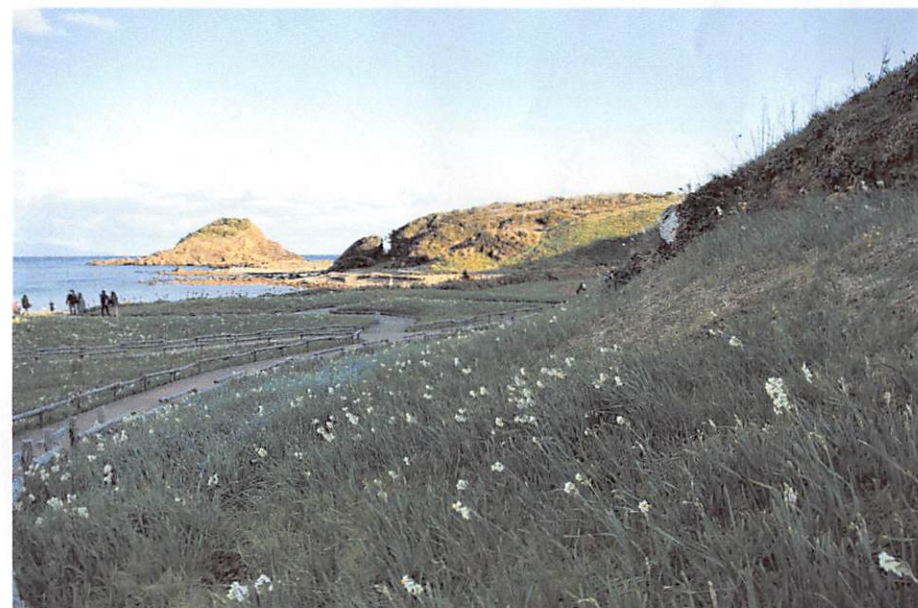


(山形、蔵王)

蔵王山頂で撮影した時、気温は-17℃。シャッターを切る為に手袋を脱いだ途端、指先が凍傷のようになる。

慌てて、盲滅法にシャッターを切り、急いで休憩室へ。

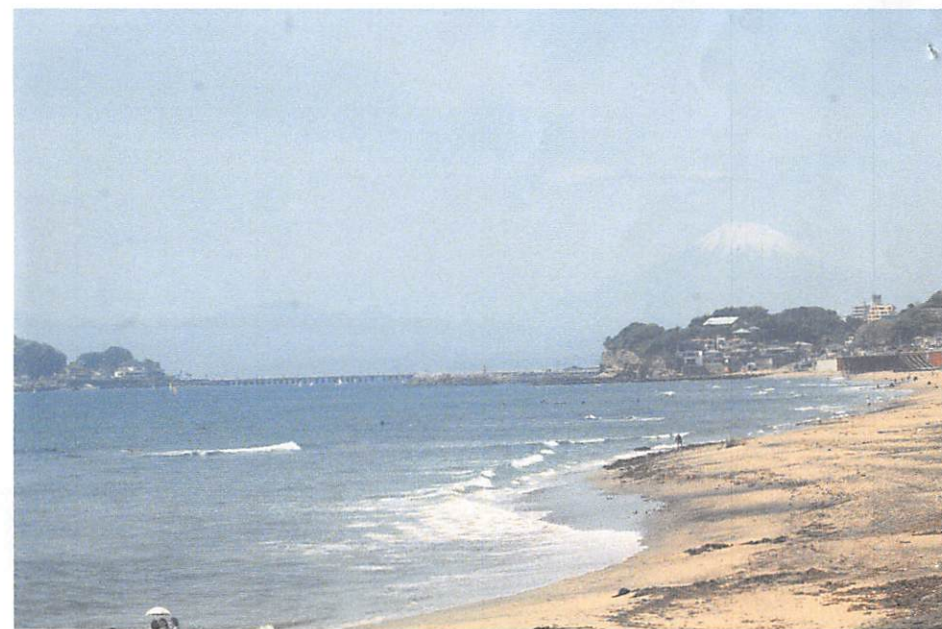
熱い缶コーヒーで指先を温め、ストーブで全身を温めて、何とか難を免れた。



(伊豆急下田、爪木崎)

伊豆急下田の爪木崎は、正月～2月にかけて、野生の水仙（野水仙）が群落する。

風に揺れる白い水仙と、黒い岩のコントラストが美しい。



(鎌倉、七里ヶ浜)

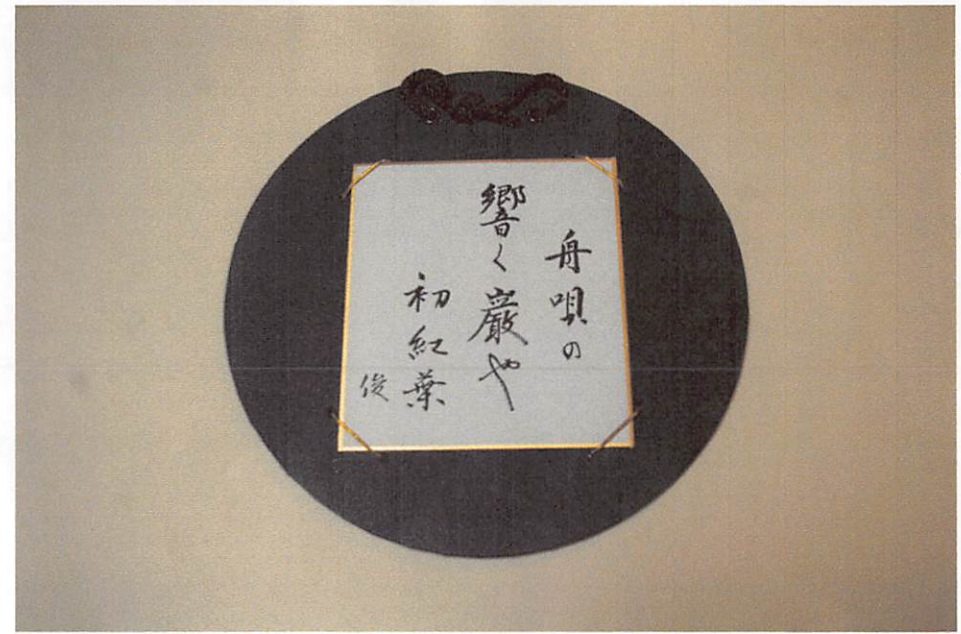
明治43年1月、逗子開成中学の生徒12名が、ここ七ヶ浜より密かにボートを漕ぎ出し、強風で転覆。全員が死亡した。

中でも、兄の勝治が弟の武三をしっかりと抱えている姿が痛々しかった。

時節は、日露戦争後5年。軍事大国の成長期で、海辺の中学校の軍事訓練に、ボート漕ぎが必修だった。

事件後、同校の大法要で歌われた追悼歌、「真白き富士の嶺」は、全国に広まった。

私が七里ヶ浜へ行ったのは、4月下旬。海面に卯波が立ち、当時を物語っていた。



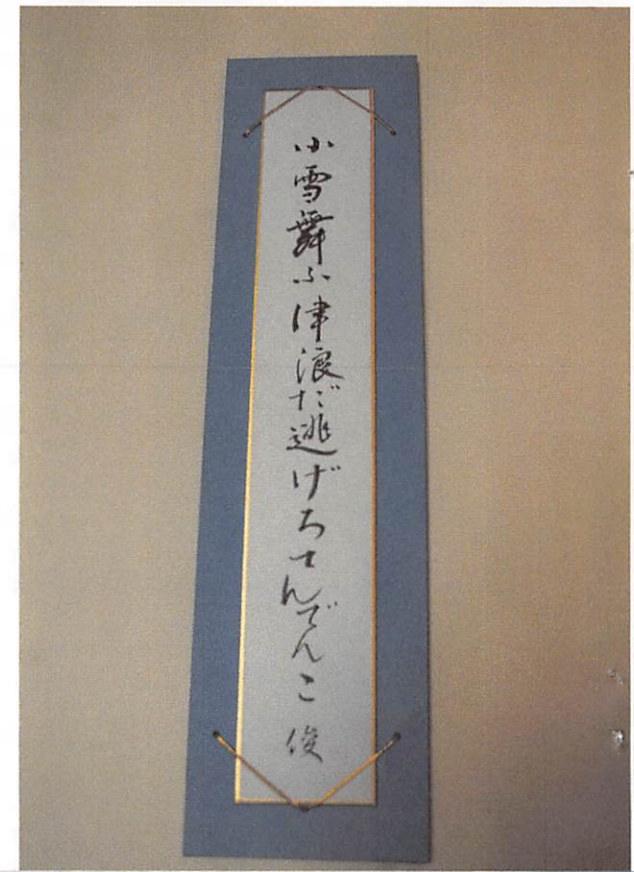
(岩手県、猊鼻溪)

「～田舎なれども 南部の国は～」

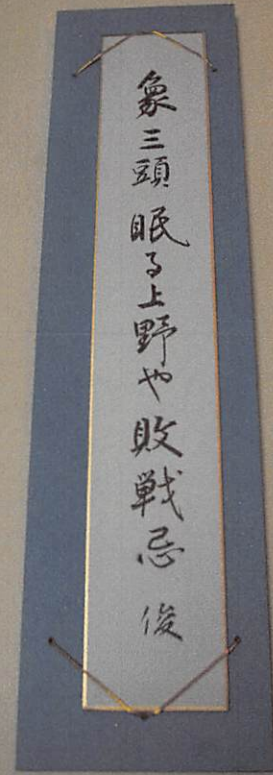
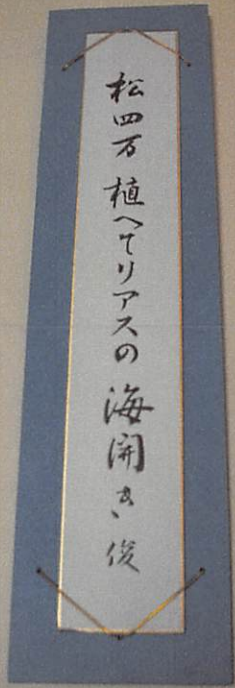
(南部牛追い歌) 50 mもある石灰岩
の岩肌に、船頭の舟唄が響く。

ここは、北上山地南端の^{げいびけい}狛鼻溪。

海岸から直線距離でおよそ60
kmあるが、岩肌の石灰岩には
約5億年前珊瑚の化石が含まれて
いる。沖縄付近のプレートが、マン
トル対流で、ここに移動したものだ。
地殻変動の驚異を感じる。



撮影：千葉 一栄氏。
(英字読売、報道写真賞受賞)



2020年9月6日付け朝日新聞
「朝日俳壇」入選。

